

令和6年度 シラバス (地理歴史)

学番10 新潟県立新潟向陽高等学校

教科(科目)	地理歴史(地理総合)	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	二宮書店『わたしたちの地理総合』、帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	帝国書院『新詳地理資料』、二宮書店『わたしたちの地理総合ワークブック』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①自ら学び、自ら考え、主体的に物事に取り組む力を育成します。</p> <p>②様々な人とコミュニケーションを図り、自他を理解・尊重する心を育成します。</p> <p>③自己の進路希望を実現できる確かな学力と豊かな人間性を育み、社会に貢献できる力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行います。</p> <p>①多様な選択科目を設定し、得意分野の力を伸ばし、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開します。</p> <p>②積極的なICTの活用や探究的な学びをとおして、思考力、自己表現力、発想力を育む授業を展開します。</p> <p>③学校行事、部活動、生徒会活動や外部と連携した学習活動をとおして、自己や他者を理解したり、社会的な課題や問題を知る機会を充実させたりします。</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して理解し、地図や地理情報システムなどを用いて地理的な情報を適切調べてまとめることが出来る事を目指す。</p> <p>(2) 地理に関わる諸事象を関連づけて多角的に考察したり構想したり、それらをもとに議論したり出来ることを目指す。</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に解決することを目指す。</p>

3 指導の重点

<p>進学・就職等希望進路が多岐にわたっていることから、</p> <p>① 実社会に必要な、基本的な地理的な知識と技能の習得を目指します。</p> <p>② 更にそれらを活用して考察したり構想したりする力の習得を目指します。</p> <p>③ 世界の諸地域の様々な価値観を尊重することの大切さについての自覚を深めることを目指します。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識：地理に関わる諸事象に関し	地理に関わる事象の意味や意義、	地理に関わる諸事象について、国家及

て、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解している。 技能：地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	特色や相互の関連を、位置や分布、場所人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的多角的に考察したり、地理的な課題に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
----------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------

5 評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・作図やレポート、意見文、提出物などの内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストの分析 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文、提出物などの内容及び提出状況の確認 ・振り返りシートの記述の分析

6 学習計画

【 評価の観点 a=知識・技能、b=思考・判断・表現 c=主体的に学習に取り組む態度 】

月	単元名	時数	教材名	学習活動（指導内容）	評価の観点			評価方法
					a	b	c	
4	1章 地図とGISの活用	7	<ul style="list-style-type: none"> ・球面上の世界 ・国家の領域と領土問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球を球面として捉え、位置等について正しく理解する。 ・国家の3要素や国境の成り立ちなどが人々の生活に及ぼす影響を考察する。 	a	b	c	ワークシート（記述の点検） ワークシート（記述の点検） 授業中の取り組み
5	1章 地図とGISの活用	7	<ul style="list-style-type: none"> ・国内や国家間の結びつき ・日常生活のさまざまな地図 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国で暮らす日本人を題材として、日本と諸外国の関係を理解する。 ・身の回りにある地図を題材にして、地図を用いた情報伝達の方法を理解する。 ・GISを用いて表現する技能を養う。 	a		c	小テスト グループワークの取り組み レポート（記述の点検）
6	2章 生活文化の多様性と国際理解	9	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境と生活文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の起伏がプレートテクトニクスと関連していることを理解する。 ・世界の各気候帯の特色と人々の暮らし工夫について雨温図や写真などから考察する。 	a		b	ワークシート（記述の点検） ワークシート（記述の点検）
7	2章 生活文化の多様性と国際理解	7	<ul style="list-style-type: none"> ・産業の発展と生活文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の産業の特徴と生活文化との関連性を捉え、その背景を理解する。 ・グローバル化による生活文化の 	a		b	定期テスト ノート、ワークの点検 ワークシート（記述）

				変容を写真などの資料を通して考察する。				の点検)
9	2章 生活文化の多様性と国際理解	6	・言語・宗教と生活文化	・世界の言語・宗教の特徴と分布、生活文化との関係を理解する。 ・世界の民族対立等の諸課題を理解し、多文化共生社会の実現方法について議論し、考察する。	a		b	定期テスト 議論の様子の観察
10	2章 生活文化の多様性と国際理解	6	グローバル化の進展と生活文化	・グローバル社会で世界をリードする産業の発展と企業の国際化の過程を捉える。	a			ワークシート（記述の点検）
11	3章 地球的課題と国際協力	8	人口・食料問題	・世界人口の急増による諸課題を理解し、資料から解決のための取り組みを考察する。 ・持続可能な発展のための食料問題との関連で人口問題を捉え、理解する。	a	b	b	・授業中の取り組み ・ワークシート（記述の点検）
12	3章 地球的課題と国際協力	5	・居住・都市問題	・都市に人口が集中する原因を読み取り、都市問題について理解する。	a			・定期テスト ・ノート、ワークの点検
1	3章 地球的課題と国際協力	5	・資源・エネルギー問題	・エネルギー資源の変化を世界的視野から考察する。 ・再生可能エネルギーのメリットやデメリットを理解し、国際協力の必要性を考察する。	a	b	c	・ワークシート（記述の点検）
2	4章 生活圏の諸課題	5	・自然環境と防災	・日本列島の地形や気候を理解して、起こりえる災害について考察する。 ・ハザードマップを活用して自らの生活圏の防災について考察し、表現する技能を身に付ける。	a		b	・定期テスト ・ワークシート（記述の点検）
3	4章 生活圏の諸課題	5	・持続可能な地域づくり	・生活圏の課題を解決するための手段として、主題図を活用し、将来に向けてのあり方を考察する。		b	c	・ワークシート（記述の点検）

計70時間（50分授業）

7 課題・提出物等

- ・各学期ごとにノートとワークブックを提出します。
- ・作業を行って提出する課題が、年間約6回あります。

8 担当者から一言

・「地理総合」は、今後ますますグローバル化する世界で生きていくために役立つ知識や技能、考え方を身に付ける科目です。1年間で、世界には様々な文化があり、価値観があることを理解してもらいたいと思います。

教科(科目)	地理歴史(歴史総合)	単位数	2単位	年次	1年次
使用教科書	山川出版社『わたしたちの歴史 日本から世界へ』				
副教材等	(なし)				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	<p>卒業までに次の資質・能力を育成する。</p> <p>①自ら学び、自ら考え、主体的に物事に取り組む力を育成します。</p> <p>②様々な人とコミュニケーションを図り、自他を理解・尊重する心を育成します。</p> <p>③自己の進路希望を実現できる確かな学力と豊かな人間性を育み、社会に貢献できる力を育成します。</p>
カリキュラム・ポリシー	<p>資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行います。</p> <p>①多様な選択科目を設定し、得意分野の力を伸ばし、主体的に学ぶ意欲を高める授業を展開します。</p> <p>②積極的なICTの活用や探究的な学びをとおして、思考力、自己表現力、発想力を育む授業を展開します。</p> <p>③学校行事、部活動、生徒会活動や外部と連携した学習活動をとおして、自己や他者を理解したり、社会的な課題や問題を知る機会を充実させたりします。</p>

2 学習目標

<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)近現代の歴史の変化に関わる諸事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながり等に着目して、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等を深める。</p>

3 指導の重点

<p>この授業は、「現代とのつながり」に重点をおく。教科書の名称に「私たち」とあるように、歴史総合の学習は「わたしたち」すなわち学習者である生徒たちが、よりよい社会を形成する主体として成長するための学習である。ただ過去の諸事象について学習するだけでなく、現在を生きる「わたしたち」に関わる課題であるという問題意識をもち、その解決を視野に入れて構想し、それを説明、議論できるように学習する。本校卒業生の進路は専門学校進学者や高卒就職者が多数を占める。そのため、多くの生徒たちにとって、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を体系的に学習する最後の機会となる。また、自らを取り巻くこの社会にある課題を追究したり解決したりするにあたり、どのように「歴史的な見方・考え方」を働かせるかを体得する最後の機会となる生徒も多いだろう。「現代とのつながり」に重点をおくことで、「歴史的な見方・考え方」を働かせて自らや自らを取り巻く社会の課題と向き合うことができる人を育成したい。</p>

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。また、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり等に着目して、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりしている。また、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に、粘り強く主体的に追究、解決しようとしている。また、粘り強く取り組む中で自らの学習を振り返り、調整しようとしている。

5 評価方法

	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査の知識・技能を試す問題 授業内で実施する小テスト等 	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」と仮説の表現 定期考査の思考・判断・表現を試す問題 探究の成果(論述) 	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」と仮説の表現 授業の活動への参加、取組状況 探究の成果(論述)

6 学習計画

月	単元	学習活動(指導内容)	評価の観点	評価方法
4	<u>A 歴史の扉</u> (1)歴史と私たち (2)歴史の特質と資料 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象と歴史とのつながりを考察、表現する。 歴史叙述の構成を理解し、複数の資料から読み 	c	<ul style="list-style-type: none"> 授業の活動への参加、取組状況(1年間の授業を通じて)
5	<u>B 近代化と私たち</u> (1)近代化への問い (2)結びつく世界と日本の開国 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 取った情報について考察、表現する。 資料を活用して「問い」と仮説を表現する。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」と仮説の表現
6	↓ (3)国民国家と明治維新 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> アジア諸国と欧米諸国の関係とその変容などについて考察、表現する。 ○6月下旬 前期中間考査	a b	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査
7	↓ (4)近代化と現代的な諸課題 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 国民国家の特徴、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などについて考察、表現する。 資料を活用して課題を探究する。 	b c	<ul style="list-style-type: none"> 探究の成果(論述)
8	<u>C 国際秩序の変化や大衆化と私たち</u> (1)国際秩序の変化や大衆化への問い (2)第一次世界大戦と大衆社会 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して「問い」と仮説を表現する。 第一次世界大戦の性格と惨禍、国際協調体制の 	b c	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」と仮説の表現
9	↓ (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> 特徴、戦後の大衆社会の形成と社会運動との関連などを考察、表現する。 ○9月下旬 前期期末考査	a b	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査
10	↓ (3)経済危機と第二次世界大戦 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> 世界恐慌、国際協調体制の動揺、第二次世界大戦の性格と惨禍、戦時下の社会、日本の占領政策と国際情勢との関係などを考察、表現する。 		
11	↓ (4)国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して課題を探究する。 ○11月下旬 後期中間考査	b c a b	<ul style="list-style-type: none"> 探究の成果(論述) 定期考査
12	<u>D グローバル化と私たち</u> (1)グローバル化への問い (2)冷戦と世界経済 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> 資料を活用して「問い」と仮説を表現する。 冷戦と地域紛争の関係、欧米とソ連の政策転換 	b c	<ul style="list-style-type: none"> 「問い」と仮説の表現



1	(3)世界秩序の変容と日本 (5時間)	の要因、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、 経済成長による社会の変化を考察、表現する。 ・市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割、		
2	↓ (8時間)	冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを 考察、表現する。 ○2月中旬 学年末考査	a b	・定期考査
3	(4)現代的な諸課題の形成と展望 (4時間)	・資料を活用して課題を探究する。	b c	・探究の成果(論述)

7 観点別評価を総括して評価する際の比率

計 70 時間 (50 分授業)

知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
45%	35%	20%

8 担当者からの一言

皆さんには、「歴史的な見方・考え方」を働かせて自らや自らを取り巻く社会の課題と向き合えるようになってほしいと思います。そのために歴史総合の学習では、資料を活用して「問い」を立て探究的に学びます。「問い」や「答え」は教師が用意しているわけではありません。探究するのは皆さんです。1年間の学習を終える頃、歴史的に思考できるようになった自らの成長を実感してほしいと思います。